

平成 23 年度 事業報告の概要

2012. 5. 30

平成 23 年度も、世界的な経済不況に加えて東日本大震災等の自然災害により、日本の経済は低迷を続けており、過度の円高もあってモノづくり機能が海外に比重を移し続け、デザイン界もまた低迷を続けている。

当財団の財政状況においては、賛助員会費や基本財産利息収入等の減少により、年度途中において歳入減に合わせて厳しい事業運営を進め、(財)JKA からの補助事業についても報告書作成を取り止めるなど、事業費総額自体の圧縮に努めた結果、単年度の収支としてはほぼ償う状況となった。

しかし、今回から新会計基準に準拠した財務諸表に移行したので、過年度の減価償却費用を計上する為に、正味財産価額が大幅に減少している。

一方、当財団の法人移行については、「新公益法人移行に向けた実務者会議」の議を受け、「一般財団法人化」を目指す方向を定めた。24 年度内には移行申請を終えなければならない状況であるが、そのためには、当法人の役割の明確化、重点事業の絞り込み、財政基盤の確立を早急に進めなければならない。今回、理事と評議員の改選の時期であるので、将来の運営体制を見越した、スリムな組織に変更予定である。

そして、松井一郎大阪府政、橋下徹大阪市政の誕生とともに、今後更なる事業の検証が進められる予定であり、当財団の受託事業についても一部見直しが見込まれる。

23 年度の主な事業としては、「デザインビジネスプロモーションセンターの運営」においては、年間 4,200 件を超えるデザイン相談や 140 件以上のビジネスマッチングを行い、実績数値が伸びている。「大阪デザイン振興プラザの運営」においては、ATC 内のデザインオフィスの受託管理と各種セミナーを開催した。

最近、特に力を入れている、デザイン人材の育成に関しては、「デザインビジネス塾 co-design」の 2 年目を開催した。大阪を代表する 4 人の著名なデザイナーを塾長として、中堅デザイナーの再教育に取り組み、大きな成果をあげた。

企業の管理職クラスがデザインを経営資源として活用できる能力を身につけて貰う、「デザインマネジメント研究会」、デザインを学ぶ学生の就業体験の「インターンシップ支援事業」、そして、一般市民・サラリーマン向けのシンポジウムの開催によって、専門職から一般市民まで、幅広くデザイン意識の高揚に努めた。

また、大阪のデザインの発信力強化として、「OSAKA STYLING EXPO 2011 living 部門」に参画し、OSAKAN VALUE をテーマに大阪のプロダクト商品の展示を行った。関西の優れたデザイン商品を紹介する「KANSAI DESIGN potential MAP 2011」に協力したほか、大阪のデザイン情報を紹介する冊子「DESIGN LINK OSAKA」の発刊、ホームページやメールマガジンによる情報提供に努めた。

大阪市から受託した、「パリ市とのデザイナーの相互交流事業」は、1 名ずつを派遣し合い、各々市民向けの展示会を開催して、実績が挙げられた。受入れ時期が 3 月から 8 月までと遅れたので、23 年度の事業経費としては決算額が少なくなっている。

また、関西の 6 つのデザイン団体の事務局を受託して、デザイナーの交流、協働を支援した。

I. 総務に関する報告

1. 理事会・評議員会の開催

(1) 第80回理事会・第43回評議員会の開催

- ・ 日時 平成23年5月25日（水）午後3時～4時45分
- ・ 場所 ATC 大阪デザイン振興プラザ 多目的ルーム
- ・ 議案 ①理事の選任に関する件（評議員会関係）
②平成22年度事業報告及び収支決算承認に関する件（理事会関係）
③平成23年度（財）JKAの補助事業の実施について（理事会関係）
④平成23年度補正予算案について（理事会関係）
⑤「（財）国際デザイン交流協会継承資産運営委員会」委員の委嘱に関する件（理事会関係）
⑥ 役員の選任に関する件（理事会関係）

【役員の登記】

平成23年8月2日付、理事3名を大阪法務局へ登記した。

任期 平成23年5月25日～平成24年6月29日

吉原康文氏は、平成23年7月1日から平成24年6月29日

(2) 第81回理事会・第44回評議員会の開催

- ・ 日時 平成24年3月28日（水）午後3時～4時45分
- ・ 場所 ATC 大阪デザイン振興プラザ 多目的ルーム
- ・ 報告事項 ①公益法人移行に向けた進捗状況
②平成23年度実施事業の概要報告
③（財）国際デザイン交流協会継承資産運営委員会
平成23年度第1回委員会報告
- ・ 議案 ①平成24年度事業計画及び収支予算（案）に関する件（理事会関係）
②公益法人移行に向けた実務者会議の設置延長に関する件（理事会・評議員会関係）
③「（財）国際デザイン交流協会継承資産運営委員会」委員の委嘱に関する件（理事会関係）

2. （財）国際デザイン交流協会継承資産運営委員会の開催

(1) 平成23年度第1回委員会の開催

- ・ 日時 平成24年3月7日（水）午後3時～5時
- ・ 場所 （財）大阪デザインセンター会議室
- ・ 報告事項 ① （財）国際デザイン交流協会継承資産運営委員会委員の委嘱
② 平成23年度JDF基本財産事業の実施概要報告
③ 平成23年度JDF基本財産の決算見込み
④ （財）JKAへの補助金要望の経過

- ・ 協議事項 ① 基本財産（JDF継承資産）の資産運用について
- ② 理事会に提出する「(財) JDF継承資産を活用した平成24年度の事業計画及び収支予算（案）」の作成について

II. 事業に関する報告

1. 「大阪デザイン振興プラザ」事業

大阪デザイン振興プラザ（以下「プラザ」という。）が、大阪デザインビジネスの拠点としての役割を果たすため、次の事業を実施した。

(1) デザインビジネスプロモーションセンターの運営（大阪市からの受託事業）

中小企業のデザイン導入・活用に関するあらゆる相談や情報提供、さらには要望に応じた専門プロデューサーの派遣指導やデザイン事務所の紹介を行うなど、中小企業とデザイナーとのビジネスマッチングに努めた。また、ホームページでの情報発信に加えて、大阪産業創造館と「ものづくりデザイン個別相談会」や「ものづくりデザインソリューション展」を実施、さらに「大阪創造取引所」など外部展示会にも出展し、相談窓口の設置ならびに多くのマッチング事例を紹介してデザイン導入を積極的に喚起した。

① デザイン一般相談・利用

一般相談・利用件数 4,287件（前年度は 4,109）

(内訳)

デザイン一般に関すること	デザイナー紹介に関すること	プロデューサー派遣に関すること	データベースに関すること	その他	合計
1,872 (2,024)	1,193 (872)	753 (726)	370 (352)	99 (115)	4,287 (4,109)

② デザイナー・デザイン事業所の紹介 138件（前年度は 110）

依頼件数 138社（前年度は 110） 紹介件数 156社（前年度は 118）

(内訳)

プロダクトデザイン分野		スペースデザイン分野		コミュニケーションデザイン分野		合計
成約（開発中含む）	33	成約（開発中含む）	5	成約（開発中含む）	39	75
交渉中	3	交渉中	3	交渉中	8	16
不成約	26	不成約	2	不成約	37	65
合計	62 (51)	合計	10 (10)	合計	84 (57)	156 (118)

※成約件数には、1案件（1企業）と複数デザイン事務所とのマッチングもカウント

③ 専門プロデューサーによる派遣相談・指導

派遣件数 140 件（前年度は 142）

(内訳)

プロダクトデザイン分野	スペースデザイン分野	コミュニケーションデザイン分野
52 (73)	13 (25)	75 (34)

④ 大阪産業創造館との連携事業

- ・ものづくりデザイン個別相談会（共催）
 - 第1回 平成23年7月20日開催 参加企業13社(10)
 - 第2回 平成23年11月28日開催 参加企業10社(9)
 - 第3回 平成24年3月7日開催 参加企業5社(7)
- ・ものづくりマッチング交流会（参加）
 - 機能性材料～平成23年5月31日開催 参加者53名 面談件数4件
 - 金属表面処理・表面改質技術～平成23年6月10日開催 参加者52名 面談件数1件
- ・ものづくりビジネスマッチング展「磨き」商談会（パネル出展）
 - 平成23年7月15日開催 参加者101名
- ・パッケージ素材・デザイン展（出展）
 - 平成23年10月6日開催 参加者数372名(133) 面談件数7件(18)
- ・ものづくりデザインソリューション展（企画協力・出展）
 - 平成24年3月9日開催 参加者290名(154) 面談件数14件(7)

⑤ 広報活動

広く中小企業に対して、デザインビジネスプロモーション事業を広くPRするため、大阪市広報板や地下鉄駅等でのポスター掲出、また産業振興機関でのチラシ配付、情報誌での事例紹介を行うとともに、ホームページで情報発信を行った。また、「LIVING&DESIGN」「大阪創造取引所」「ビジネス・エンカレッジ・フェア」「エコデザインフェア」に出展し、当センターを積極的にPRした。

(2) デザイン工房等の運営（ATC<アジア太平洋トレードセンター株式会社>からの受託事業）

様々な分野で活躍する新進デザイナー、クリエイターのインキュベート（育成）を目的に設置されたデザイン工房をはじめ、デザインギャラリー、ショーケース、多目的ルーム、ワークルーム、交流サロン、会議室などの運営・管理や工房入所者の作品展を行い、デザイナーの育成と情報発信などに努めた。

- ① インキュベーションオフィス入所事務所数 11事務所（前年度は7）
- ② デザイナーオフィス入所事務所数 25事務所（前年度は26）
- ③ 第16回デザイン工房入所者作品展
インキュベーションオフィス入所者の活動・成果発表の場として開催した。
 - ・テーマ 「明日へのデザイン」

～明日の笑顔のためのデザインができること～

- ・期 間 平成24年3月9日～11日 (3日間)
- ・会 場 大阪デザイン振興プラザ デザインギャラリー、ショーケース
- ・来場者 542人

④ 特別記念講演

- ・テーマ ユニバーサル・スタジオ・デザイン
日本に“夢”と笑顔を。～クリエイターだからこそできる社会貢献～
- ・講 師 ランディ・バーネット氏
- ・日 時 平成24年3月9日
- ・会 場 サンセットホール
- ・参加者 98人

(3) イベント企画、ライブラリー等の運営

(ATC<アジア太平洋トレードセンター株式会社>からの受託事業)

「大阪デザイン振興プラザ」が主催するイベント企画・実施のサポートをはじめ、デザインギャラリー、ライブラリー等の管理を一元的に行い、デザイン情報発信拠点としての役割を果たした。

- ① 企画運営会議 ・開催回数 9回 (前年度は 10)
- ② 企画推進会議 ・開催回数 10回 (前年度は 12)
- ③ 主なイベント開催状況 ・展示会 9回 (前年度は 7)
セミナー 13回 (前年度は 11)

《内訳》

テ ー マ	開 催 期 日	区 分	参加者
ODPセミナー①競争力のある商品開発のために	平成23年4月21日	セミナー	51
ODPセミナー②第1回デザイナーのための2011独立サポートセミナー	平成23年5月14日	セミナー	34
第43回毎日・DAS学生デザイン賞金の卵賞入賞・入選作品展	平成23年6月1日～5日	展示会	
ODPセミナー③第2回デザイナーのための2011独立サポートセミナー	平成23年6月11日	セミナー	54
BOPデザイン特別シンポジウム 世界をそして日本を変えるBOPデザイン	平成23年6月24日	セミナー	
ODPセミナー④第3回デザイナーのための2011独立サポートセミナー	平成23年7月9日	セミナー	62

○△□(まるさんかくしかく)展 おもちゃであそぼう! かたちであそぼう!	平成 23 年 8 月 11~14 日	展示会	
ODPセミナー⑤一つ上のプレゼンテーションを目指して	平成 23 年 8 月 26 日	セミナー	71
ODPセミナー⑥製品のデザインを守るためには?	平成 23 年 9 月 30 日	セミナー	59
U-30 建築展	平成 23 年 9 月 9 日~ 10 月 10 日	展示会	
ODPセミナー⑦ソーシャル・メディアのトラブル回避術	平成 23 年 10 月 14 日	セミナー	56
デンマークデザインセミナー デザインによる革新と成長	平成 23 年 10 月 28 日	セミナー	137
ATC博	平成 23 年 11 月 3, 5, 6 日	展示会	
関西オープンソース	平成 23 年 11 月 11, 12 日	展示会	
ODPセミナー⑧デザインで元気企業になる法	平成 23 年 11 月 25 日	セミナー	22
日本の空間デザイン展 2011	平成 23 年 12 月 17 日 ~ 22 日	展示会	
ODPセミナー⑨都市を演出	平成 23 年 12 月 20 日	セミナー	49
ODPセミナー⑩企業価値・ブランド価値・製品価値	平成 24 年 1 月 27 日	セミナー	73
第 26 回毎日・DAS「銀の卵賞」 入賞・入選作品展	平成 24 年 2 月 3 日~6 日	展示会	
ODPセミナー⑪2012年LED照明はどう動くのか?	平成 24 年 2 月 24 日	セミナー	81
2012 大阪工芸協会展	平成 24 年 2 月 18~23 日	展示会	
大阪市立デザイン教育研究所 1 年生作品展	平成 24 年 2 月 25~27 日	展示会	

③ 主な視察・見学状況 来館件数 8 件 (前年度は 8) 来館者総数 83 人 (前年度は 48)

大阪府立産業技術総合研究所	平成 23 年 6 月 4 日	10 人
特許庁	平成 23 年 8 月 10 日	2 人

鳥取県立倉吉西高校	平成 23 年 10 月 21 日	19 人
新潟市都市政策研究所	平成 23 年 10 月 25 日	5 人
大阪府立西野田工科高校	平成 23 年 10 月 25 日	39 人
(株)ナレッジ・キャピタルマネジメント	平成 23 年 10 月 27 日	2 人
大阪市立デザイン教育研究所	平成 24 年 1 月 20 日	5 人
神戸商工会議所	平成 24 年 2 月 28 日	1 人

2. 人材育成(研修・教育)事業

(1) デザインビジネス塾 第 2 期開講 (財)JKA 補助事業) (JDF 特別会計事業)

デザインを通して、問題の発見・課題の解決が図れる人材、新しいビジネスを創造できる人材を毎年 20 名、5 年間で 100 名を目標に育成するため、4 つの分野で活躍する大阪の著名デザイナーを塾長に委嘱し、デザインビジネス塾—co-design—の 2 年目を実施した。

20 名の応募を得て、6 月 21 日に入塾式 (ATC 多目的ルーム) を実施し、その後、中之島 BANKS に会場を移した。行政関係者、第 1 期修了生も随時、傍聴した。

4 人の塾長による講義と、翌週にはその内容について理解を深めるディスカッションを行うとともに、塾外講師として、小松真実氏からは「クリエイティブな資金調達」、ムラタチアキ氏からは「デザインビジネスの今までとこれから」、山崎 亮氏からは「コミュニティデザイン」、下川一哉氏からは東日本大震災も視野に入れた「いま求められる『スマートデザイン』」の特別講義を受けた。

9 月 27 日には、塾生の「自己開発テーマ」の発表を受け、10 月から 11 月の 4 回に亘って、4 班に分かれて、塾長ワークショップを行った。

12 月 3 日には 4 時間近くに及ぶ成果発表会が実施され、半年間に亘る長丁場のデザインビジネス塾を終了し、全員に修了証書を授与するとともに、ODC の人材 BANK に登録された。

- ・ 開催期間 平成 23 年 6 月 30 日(水)～12 月 18 日(土) 全 20 日間
- ・ 会場 中之島 BANKS (入塾式、成果発表会は ATC 多目的ルーム)
- ・ 修了生 20 名 (受講者 20 名)

総代塾長 坂下 清氏 ODC 理事長
 講義テーマ「求められる『design』とは～デザインの価値～」

塾頭 越田 英喜氏 ODC 副理事長
 進行コーディネーター

塾長 間宮 吉彦氏 空間デザイナー
 講義テーマ「時代のムード、スタイル、場の雰囲気創造」

羽場 一郎氏 プロダクトデザイナー

講義テーマ「成果の上がるデザインをクリエイトする為に」

山納 洋氏 プロデューサー

講義テーマ「私的プロデュース論」

吉田 順年氏 クリエイティブディレクター

講義テーマ「コミュニケーションデザインが可能にする、明日」

【各塾の成果発表のテーマ】

間宮塾 移動式お茶の間キットの提案

羽場塾 絆のデザイン “想いを伝えるワークショップ”
「+Mature(プラスマチュア)」時のひきだしを開く

山納塾 行政による「リ・デザインプロジェクト」の提案

吉田塾 デザインで変わる(コミュニケーション)の場

(2) デザインマネジメント研究会・フォーラムの開催 (運用基金事業)

デザインマネジメントに対する理解を深め、デザインを戦略的に活用する総合的なマネジメント手法について学び、デザイン経営の実践を図る人材を育成することを目的に「デザインマネジメント研究会」を実施した。(過去、平成16年度、平成18年度、平成21年度、平成22年度にも実施してきた。)

研究会は4名の塾生による自己紹介と各自の研究課題についてのプレゼンテーションを皮切りに、坂下塾長の「デザインマネジメント入門」と題しての「日本におけるデザインマネジメントの展開について」、佐藤典司氏(立命館大学 経営学部教授)による「情報消費社会のデザインマネジメント」、吉田順一氏(大阪府立大学 21世紀科学研究機構 教授)による「マーケティング視点のデザインマネジメント」の特別講義を受けた後、「自社におけるデザインマネジメント課題について」グループディスカッションを行った。

第6回研究会は、「デザインマネジメントフォーラム」と題した公開講座と合わせて11月24日(木)に実施し、昨年度の受講生3名(木下依子氏(プランニングデザインオフィス YoriYori)、桑江淳太氏(株式会社クボタ)、増田昌義氏(株式会社オレンジ))をパネリストに迎えた。65名の傍聴者が熱心に聴き入る中、パネリストからは、デザインマネジメント研究会参加後の認識や実践等、一年間の自社での具体的なプロセスや事例を発表し、デザインによる企業価値向上の取組の認識を深めた。

第7回は、坂下塾長による「Good Design Management 実現を目指して」と題しての講義をもとにディスカッションを展開し、最終日には、塾生による成果発表のプレゼンテーションと、修了証書の授与を実施し、23年度のデザインマネジメント研究会を終了した。

- ・ 開催期間 平成23年10月13日(木)～12月8日(木)
- ・ 会場 大阪産業創造館 会議室
- ・ 受講者 4名

(3) インターンシップ支援事業の実施（財JKA 補助事業）（運用基金事業）

平成 14 年度から大阪デザイン振興プラザ・デザイン工房会等の協力を得てインターンシップ支援事業に取り組み、平成 19 年度からは(財)JKA の補助事業として、「中小機械工業の付加価値向上に資するデザイン人材育成」の観点で実施してきた。

今回の実施にあたり、受入事務所の募集については、大阪デザイン振興プラザ・デザイン工房会と、プロダクト系を中心に府下のデザイン事務所に呼びかけた結果、31 社からの応募があった。また、学生募集対象校は、デザイン学科を有する専門学校、短期大学、大学、48 校に募集要項を配布し、募集に当っては、昨年度同様、本人の意向を生かすため、第 3 希望まで聴取した。応募者は、前年度は前々年度のほぼ 1.5 倍であったが、今年度も 104 名（25 校）から 110 名（30 校）となり、この事業の人気の高さ、定着を示している。

実習生の選考に際しては、実行委員会でプロダクト系を重視しつつ、希望者の多い受入デザイン事務所を優先して選定し、応募者の応募動機や熱意などを勘案し、慎重に 19 名を選考した。

実習については、昨年度 15 日間で実施したが、財政上の問題もあり 1 日短縮の 14 日間とした。実習終了後、インターンシップで得た内容等について感想文の形で提出を求めた。また、受入事務所についても、実習生の成長を評価する目的で、デザインスキル等について報告を頂いた。

そして、インターンシップ終了後、実習生と受入事務所の方々に集まっていただき、成果等を語り合う「座談会」も開催した。

- ・ 実施期間 平成 23 年 7 月 11 日(月)～9 月 30 日(金)のうち 14 日間
- ・ 実施場所 大阪デザイン振興プラザ・デザイン工房内デザイン事務所
及び大阪市内・近郊のデザイン事務所
- ・ 受入事務所 19 社
- ・ 実 習 生 19 名（大学院 2 名、大学 12 名、デザイン専門学校 5 名
男子 4 名、女子 15 名）

○ 座談会

- ・ 開催日時 平成23年9 月29 日（木）午後3 時から5 時
- ・ 開催場所 大阪デザイン振興プラザ・多目的ルーム
- ・ 参加者 実習生 12 名、受入事務所 16 名

なお、平成 19 年度から 22 年度のインターンシップ実習生 83 名の「その後の進路」を平成 23 年 11 月に調査した結果、51 名が就職又は内定し、そのうち 86%に当たる 44 名がデザイナーなどデザイン関係の仕事に就いていることが分かった。

厳しい就職状況のもとで、着実にデザインの道に進まれていることは、「インターンシップで学んだ社会の厳しさ」が十分分かっている強さであり、インターンシップの経験が生かされているとも言える。

(4) 大阪市とパリ市とのデザイナー交流事業の実施（大阪市からの受託事業）

クリエイティブ産業の振興を図り、若手デザイナーが世界的視野で活動できるよう応援し、人材交流を通して大阪のデザイン力を世界に発信するため、クリエイティブ・デザイン分野の世界的先進都市であるパリ市と大阪市の若手デザイナーの人材交流を実施した。

派遣については、派遣者選考委員会を設置して公募条件等を決め、6月に希望者を募集したところ、グラフィック、アパレル、プロダクト等幅広い18名のデザイナーから応募があった。書類選考で12名に絞り、面接により1名の派遣者を決定した。派遣は本年10月末から約5ヶ月、受入先はパリ市のデザイナー・インキュベーション施設であった。

また、パリ市からの受入については、12月のパリ市主催のクリエーショングランプリで大阪への派遣者を公募して、1名を決定した。大阪市内のデザイン事務所で受け入れて支援する予定であったが、テーマが特殊なためにODP大阪デザイン振興プラザで受入れて、専門技術者への取り次ぎ、全般的な支援を行っている。

- ・派遣者 石山 暁(いしやま あき)
 (株)タピエ インテリアデザイナー
- ・派遣期間 平成23年10月31日(月)～平成24年3月17日(土)
- ・派遣先 パリ市 アトリエ・ド・パリ
- ・テーマ Kawaii Zakka 展覧会
- ・現地での活動
 - ① 11月21日(月)～26日(土)に、パサージュ・ショワズールにおける日本製品の紹介展示会である「Salon idées Japon」において、大阪の作家5人の作品を展示・紹介した。
 - ② 1月5日(木)～14日(土)に、マレ地区のパリ市営ギャラリーにおいて、「Kawaii Zakka 展覧会～カワイイとカワイクナイの間～」を単独開催して、大阪の作家9名の作品を展示し、一部販売も行った。400名余りの来場者を迎え、日本のクリエイターのレベルの高さをアピールした。
- ・帰国報告会
 - 3月22日(木)18:30から、メビック扇町において、スライドによってパリでの活動を報告した。45名の参加者があり、税金など、具体的な質疑があった。
- ・パリ市からの受入者
 - マリー＝オロル・スティッカー＝メトラル (Marie-Aurore STIKER-METRAL)
 パリ市在住の家具等のプロダクトデザイナー
- ・受入れ期間 平成24年3月2日(金)～8月末
- ・受入先 大阪デザイン振興プラザ
- ・テーマ 日本の伝統的な甲冑の製法技術を学び、家庭用品を開発したい。

3. 情報の発信・調査事業

(1) 情報誌「DESIGN LINK OSAKA 中小企業のためのデザイン情報」の刊行

(大阪市からの受託事業)

中小企業経営者ならびに商品開発担当者に対して、今日の経営の基盤強化に欠かすことのできないデザインについて、幅広く情報の収録・紹介を行い、経営の活性化とデザイン水準の向上、ひいては大阪産業界のデザイン振興に寄与することを目的として発行した。

- 発行回数 年4回（7月、11月、1月、3月）
- テーマ 「安心」「役割」「つながり」「追求」
- 発行部数 各号1,000部
- 配付先 企業、業界団体、デザイン事務所、デザイン関係機関・団体 等

(2) OSAKA STYLING EXPO 2011 LIVING への参画 (JDF 特別会計事業)

本事業は、大阪・関西で活躍するプロダクトデザイナー等が創り出す商品を選定・編集し、大阪らしいライフスタイル「OSAKA STYLING」として情報発信することにより、消費の刺激、消費者起点の商品開発、新進クリエイターの発掘・育成等に資するものである。

平成23年度は、22年度に大阪府と共催した「DESIGN 優品関西」を統合して、新たに「OSAKA STYLING EXPO 2011 LIVING」（「DESIGN 優品関西」後継事業）として実施した。

本事業は、「OSAKA STYLING EXPO 2011 FASHION」（仮称）と分離した上で、主催者である大阪スタイリングエキスポ実行委員会に ODC も加わり、大阪商工会議所、大阪府、大阪市とともに推進した。

具体的には「リビング&デザイン展」および大阪市が実施する「御堂筋デザイン・ストリート」と連携すべく、淀屋橋の芝川ビルに会場を設けるとともに、大阪・関西で活躍するプロダクトデザイナー等から「OSAKAN VALUE」をテーマとして公募した、優れたデザインのリビング用品の中から4人のスタイリング・エディターが選んだプロダクト17社58アイテムを展示・販売し、出品者が消費者と直接交流して意見や感想を聴く機会を設けた。

- ・ 名 称 OSAKA STYLING EXPO 2011 LIVING 部門
- ・ 開催日時 平成23年9月18日(日)、19日(月・祝)10時から18時まで
- ・ 場 所 大阪市中央区 淀屋橋 芝川ビル4階モダンテラス
- ・ 参加者 826名
- ・ 参加費 無料
- ・ 参加企業 (株)アートファイアー、市場(株)ほか 17社58アイテム
- ・ スタイリングエディター
 - 石橋 勝利 (AXIS 編集長)
 - 植木 啓子 (サントリーホールディングス(株) サントリーコレクション学芸員)
 - 蔵 均 (Meets Regional 編集長)
 - 鳥井小路 貴子 (スタイリスト)

(3) 大阪デザイン賞(仮称)選定・表彰事業 (JDF 特別会計事業)

大阪デザインセンター(ODC)ではグッドデザイン商品の選定を49年間続けてきたが、平成20年度から休止している。しかし、デザイン振興という観点で表彰する仕組みを考えるべきだということで平成22年度に、独自のデザイン選定事業の構築に取り組むため、「Innovative Good Design Award 選定事業」運営・検討委員会(仮称)を設置し、様々な角度から検討を行ってきた。

そして、23年度は大阪デザイン賞(仮称)実行委員会を設置し、下川 一哉(日経BP社 日経デザイン 編集長)、堂野 智史(メビック扇町 所長)、藤本 英子氏(京都市立芸術大学 教授)、諸岡 信一(元 シャープ株式会社 オンリーワン商品企画推進本部総合デザインセンター 開発室 室長)、吉田 三千代(サンケイリビング新聞社 企画開発部 部長)の5氏による委員会を5月19日(木)に開催した。

委員会では、単に良いデザインのもの表彰するだけではなく、「良いものを作り出すための過程」が重要で、この賞をベースに浮上すると言うストーリーが必要であり、事業として成功するための支援のシステムが必要であると指摘され、大阪デザイン賞ありきではなくて、評価・顕彰制度と産業振興との一体性を再度議論する必要があるとされた。

そのため、当財団が何に重点を置いて活動すべきか、中期ビジョンについて検討することとした。

一方、イベントとして予定していた「デザインシンポジウム」を、「よりよい暮らしのためのデザイン」をテーマに開催した。

- ・ 名 称 シンポジウム 「よりよい暮らしのためのデザイン」
- ・ 開催日時 平成23年9月15日(木) 午後1時から5時まで、
- ・ 場 所 大阪市中央区本町 野村コンファレンスプラザ大阪御堂筋
- ・ 参加者 50名
- ・ 参加費 1人 1,000円 (ただし、学生は500円)
- ・ 第1部 基調講演 講師 下川 一哉氏(日経BP社「日経デザイン」編集長)
- ・ 第2部 パネルディスカッション

パネラー 下川 一哉氏

羽場 一郎氏(プロダクトデザイナー アイデア(株)代表取締役、
(財)大阪デザインセンター「デザインビジネス塾」塾長)

鈴木 敏彦氏(建築家、アトリエOPA代表)

司会兼コーディネータ

山納 洋 (株)大阪ガス、(財)大阪デザインセンター「デザインビジネス塾」塾長)

(4) 関西デザインポテンシャルマップの作成協力 (JDF 特別会計事業)

近畿経済産業局では、デザインと感性を活かしたモノづくりの活性化と新たな市場形成をめざし、デザイン経営を実践する企業の競争力強化のため、国内のみならず海外でも通用す

る 38 点のデザイン商品を紹介した「KANSAI DESIGN potetial MAP 2011」（日英中国語版）を 8,000 部作成して配付した。

近畿管内から 101 件の応募があり、喜多俊之氏を委員長とする選定委員会において、デザイン性、海外通用性、製品の特徴、地域性の 4 つの観点から 38 点を選定した。

(5) 国際交流(受入)・中国広東省仏山市順徳区産業デザイン協会との交流（JDF 特別会計事業）

経済のグローバル化のもとアジア各国のデザイン力の向上はめざましく、これら諸国と交流を行うことは、大阪・関西のデザイン振興・デザインビジネスの発展にとって有効です。

中国・広東省仏山市順徳区産業デザイン協会から平成 23 年 2 月に、「平成 23 年 6 月に来阪し、貴センターとの交流を行いたい」旨の申し出があり、受入れの準備をしていたが、3 月 11 日に東日本大震災があり、来日が延期された。

結局、訪問団は、構成を変更して、翌年度、平成 24 年 4 月 9 日(月)に視察に訪れ、大阪デザイン振興プラザを案内し、ソーシャルデザインカンファレンス 2012 を視察した。

(6) デザイン交流視察団への参加（JDF 特別会計事業）

大阪市とミラノ市の姉妹都市提携 30 周年とパリ市とのデザイン交流協定締結を記念して、大阪市と(財)大阪国際経済振興センターが、パリ市、ミラノ市へデザインを主体とした経済交流ミッションを派遣することとなり、当センターから吉原専務理事が 12 名の団長として参加した。

両市のデザイン振興策、デザイン学校が企業と連携して学生を指導している様子などを視察した。また、参加企業の商品や大阪のデザイン作家の作品の展示も行った。

・ 期間 平成 23 年 11 月 20 日(日)～11 月 27 日(日)

・ 訪問先 パリ商工会議所、デザイン学校 ECOLE BOULLE、デザイン・インキュベーション施設「アトリエ・ド・パリ」ほか

ミラノ市役所、在ミラノ日本国総領事館、JETRO ミラノ、ミラノ市内デザイン学校 SPD、IED、NABA、ISAD 4 校

(7) シンポジウムの開催（(財)JKA 補助事業）（JDF 特別会計事業）

高機能、信頼性、低価格など、日本製品が備える従来の強みに加えて、生活者の感性に働きかけ、感動や共感を得ることによって顕在化する経済価値を積極的にものづくりに取り込もうとする、「感性価値創造イニシアティブ」の考えを生かし、東日本大震災からの日本の復興を加速させるためにも、我が国の歴史・文化の中で培われた美意識や創意工夫に基づく「知的資産」を各地域からも発掘・活用し、豊かなコンテンツを育みながらグローバルに発信し、更に人気を拡大することが重要である。

このような動きの中で、環境にやさしい、感じのいい暮らしをずっと提供してきた無印良品の思想を金井 政明(株)良品計画社長から基調講演で伺うと共に、大阪のものづくり企業の代表として、環境に配慮したモノづくりを洗練されたデザインで提案する三洋電機(株)の清水 正人(株)アドバンスデザインセンター所長、高品質・高機能な商品コンセプトに愛情を込めて提供する(株)シマノの明上 誠治(株)デザイン室参加から、それぞれ、ブランド戦略、企業イメージづくりにおけるデザインの役割についてご紹介いただき、あわせて、日経デザイン下川 一

哉編集長からは、暮らしと生命を守る Smart Design のご提案をいただいた。

これらパネラーによって、「デザインは経営資源」という認識を共有化し、個人から地域、日本、世界に広がるデザインの現状と課題、特に、地域から創造されるデザインがモノづくり、まちづくりに果たしうる役割について、認識を深めた。

- ・ 名 称 シンポジウム 「地域創造とデザイン」
- ・ 開催日時 平成 23 年 11 月 18 日(金) 午後 1 時 30 分から 5 時まで、
- ・ 場 所 大阪市北区西梅田 ブリーゼプラザ小ホール (旧サンケイホール)
- ・ 参加者 90 名
- ・ 参加費 1 人 1,000 円 (ただし、学生は 500 円)

(8) ユーザーと共に考えるデザイン展 (運用基金事業)

平成 23 年の「おもちゃ展」に続き、夏休みの子供向け企画として、段ボールの滑り台やパズル、○△□型の段ボールブロックでの作品づくり、遊具、絵本などを親子で楽しみながら、子供の創造とイマジネーションの世界を生み出す遊び空間を楽しんでいただけた。

1. 実施時期 平成 23 年 8 月 11 日 (木) ~14 日 (日) 4 日間
2. 実施場所 A T C ・ I T M 棟 10 階 サンセットホール
3. タイトル ●▲■ (まるさんかくしかく) 展
4. 参加費 無料 (ワークショップは有料)
5. 参加者 1,792 人

(9) ODC サロンの実施 (運用基金事業)

ODC がデザイン関係者の交流を図り、情報発信できる場を持つため、21 年度から「ODC 交流サロン」を実施している。

本年度は、デザインビジネス塾修了生や賛助会員企業をはじめ、デザイン関係者・若手デザイナーなど、人と情報が集まり、楽しく集いながらもデザインビジネスに繋がる場となるよう、ODC サロンを 2 回開催した。

① ODC 交流サロン VOL. 3

- ・ とき 平成 23 年 5 月 20 日 (金) 午後 6 時 30 分から
- ・ 場所 A T C ・ I T M 棟 10 階 多目的ルーム
- ・ ゲストスピーカー
羽場 一郎氏 (デザイナー・イデア株式会社代表取締役)
- ・ 参加者 56 名

② ODC 交流サロン VOL. 4

- ・ とき 平成 23 年 8 月 19 日 (金) 午後 6 時 30 分から
- ・ 場所 A T C ・ I T M 棟 9 階 セミナールーム
- ・ ゲストスピーカー
飯田 吉秋氏 ((有)アイ・シー・アイデザイン研究所
代表取締役)

(10) ホームページの充実

サイトのリニューアルを行い、事業の告知など当センターの新しい情報を、その都度更新して発信し、閲覧数の向上に努めた。また、デザインビジネスプロモーションセンター相談業務の表現見直しやマッチング事例、デザイナー情報を多数掲載して、利用の向上に繋げた。

今後、ODCが大阪の多様なデザイン情報を発信し、Webを軸とした広報・情報提供に努めます。

(11) デザイン事務所データベースの整備と運用管理

ビジネスマッチングに活用するために、在阪を中心とするデザイン事務所データについて、得意分野・開発事例など関連情報を収集の上、利用者のニーズに応じて活用した。また、登録デザイン事務所に対して、関連するイベント・セミナー等の情報を提供した。

○登録デザイン事務所数

- ・ビジュアルデザイン分野 229社 (前年度は 184)
- ・プロダクトデザイン分野 95社 (前年度は 83)
- ・スペースデザイン分野 47社 (前年度は 40)

(12) 事業評価委員会の設置

当財団では、(財)JKAから補助金を得て3つの事業を実施したが、(財)JKAでは、「補助事業実施に関する事務手続要領」において、補助事業の透明性、効率性を確保するため、補助事業者の「事前評価」「事後評価」を求めている。事後評価に当たっては、補助事業者の内部評価だけではなく、評価の客観性を担保するため、外部有識者で構成する評価委員会の設置を平成22年度から求められた。

そのため、23年度も(財)JKAの補助事業等を評価する(財)大阪デザインセンター事業評価委員会を設置し、3名の評価委員(藤本英子京都市立芸術大学教授、竹川智子株式会社フラン代表取締役、羽原清明大阪デザイン団体連合監事)を委嘱し、平成24年3月6日(火)午前9時30分から(財)大阪デザインセンター会議室で委員会を開催した。

委員会では、委員長に藤本英子氏を選出した後、評価の検討に入った。

①デザインビジネス塾、②デザイン学生のためのインターンシップ支援事業、③シンポジウムの開催 について事業概要や参加者アンケート、事後評価書等を説明した。

委員から広報の強化、関係機関への働きかけ等の意見を受け、評価の妥当性を巡って委員間で意見交換の後、ビジネス塾において一般市民への公開性を拡大することについて、補助事業者であるODCの評価を一部修正し、評価委員会を終えた。この内容は、事後評価書に反映し、(財)JKAに提出した。

4. (財)国際デザイン交流協会継承資産運営委員会

国デ協の継承資産については、(財)国際デザイン交流協会継承資産運営委員会(構成:大阪府、大阪市、大阪商工会議所、近畿経済産業局の役職員の中からそれぞれ1名を理事会の同意を得て理事長が委嘱する。)で、引継がれた財産の管理や同財産をもって行う事業に関し、理事会に提出する収支予算、事業計画などについて審議を行うこととなっている。

運営委員会を平成24年3月7日(水)に開催し、平成23年度に継承資産を活用して実施した事業内容等を報告するとともに、理事会に提出する平成24年度の事業計画と予算案などを集約した。

5. 新公益法人への移行について

新公益法人移行に向けた実務者会議を、6月24日(金)、10月25日(火)、24年2月29日(火)の三回に亘って開催して審議をいただいた。

公益財団法人に移行認定されるためには、公益目的事業の比率が半分以上であること、健全な財政基盤があること、退職給付引当金、減価償却費などの新公益法人会計基準に準拠した適正な貸借対照表があること、などの厳しい要件があるが、達成できる目途が立たなかったために、本来、公益財団法人化を目指すべきではあるが、「一般財団法人」の手続きに絞って具体的に進めることとし、3月28日の理事会・評議員会で方向性を定めた。

一般財団法人に移行のための申請は、平成24年度内には行う必要があり、今後は、これまで公益目的で蓄積した財産を、公益目的のために年次的に使い切る「公益目的支出計画」を策定する必要がある。

6. デザイン団体支援事業

大阪デザイン団体連合をはじめ、(社)日本インダストリアルデザイナー協会関西ブロック、(社)日本インテリアデザイナー協会関西事業支部、(社)日本商環境設計家協会関西支部、日本デザイン・ソサエティ、AP~N 熟年女性デザイナー協会からの委託を受け、各団体の事務局業務を推進し、各団体の支援に努めた。

7. その他事業

(1) SOCIAL DESIGN CONFERENCE 2012 への参画

「エコ・プロダクツデザインコンペ」がこれまで4年間実施されたが、これに代わる新たな事業として、世界で最も収入が低い所得層を対象に、問題を解決するデザインとデザイナーの育成を図ることを目的に、6月にODPにおいて「BOPデザイン特別シンポジウム」として開催された。

- ・ 名称 環境月間BOPデザイン特別シンポジウム
- ・ 統一テーマ 「世界をそして日本も変えるBOPデザイン」
- ・ 開催日時 平成23年6月24日(金) 13時30分~18時
- ・ 場所 ATC デザイン振興プラザ
- ・ 参加費 無料
- ・ 基調講演 高木 美香 (経済産業省 クールジャパン室室長補佐)

- ・ 講演 小田 兼利 (日本ポリグル株式会社 代表取締役会長)
ほか パネラー、ファシリテーター

そして、BOPに加えて、エコデザイン、地域創生デザイン、震災復興デザインの4つのテーマをまとめた、SOCIAL DESIGN CONFERENCE 2012が開催された。

いずれも、当センターは実行委員会に参加して、運営に協力した。

- ・ 名称 SOCIAL DESIGN CONFERENCE 2012
- ・ 統一テーマ 「デザインで日本再生を考える20日間」
- ・ 開催日時 平成24年3月20日(火・祝)から4月8日(日) 11時～20時
- ・ 場所 ATC デザイン振興プラザ
- ・ 参加費 無料
- ・ 特別基調講演 千住 博 (京都造形芸術大学学長)
- ・ モデレーター ムラタ チアキ (株)ハーズ実験デザイン研究所 代表取締役)
ほか 講演者、パネリスト多数
- ・ 講演・トークショー参加者数 174名

(2) 商工経済団体との連携強化

大阪商工会議所、大阪府中小企業団体中央会、大阪府商工会連合会、大阪市工業会連合会及び大阪卸商連盟など商工経済団体との連携の下、諸事業の推進とPRに努めた。

(3) 賛助会員の加入促進

センターの財政基盤の強化を図るため、市内デザイン事務所を中心に積極的な加入勧奨に努めたが、経済情勢の悪化により会員数は減少した。

- 賛助会員数 146社 (前年度は 155)

(4) デザイン関連事業の後援、協賛状況

デザイン関連諸事業に対して、後援12件(前年度は 8)を行った。

(内訳)

開催日	名称	団体名	区分
平成23年6月4日	J I Dセミナー	(社) 日本インテリアデザイナー協会関西事業支部	後援
平成23年6月11～12日	コミックアートフェスタ2011	大阪総合デザイン専門学校	後援
平成23年6月15～17日	S I G N E X P O 2011	近畿屋外広告美術組合連合会	後援
平成23年9月14～	「リビング&デザイン」	(社) 大阪国際見本市委員会	後援

19日			
平成23年9月9日～ 10月10日	U-30 30歳以下の若 手建築家7組による建築展	特定営利法人アートアンド アーキテクトフェスタ	後援
平成23年9月23日 ・24日	U-30 記念シンポジウム	特定営利法人アートアンド アーキテクトフェスタ	後援
平成23年6月下旬 ～11月下旬	第8回”若者によるエコ・メ ッセージ “ポスターデザイン 公募	地球環境関西フォーラム	後援
平成23年11月29日 ～12月1日	サロン・ド・アイペック 20 11	(社) 日本インテリアプラ ンナー協会	後援
平成23年12月10日	JIDセミナー	(社) 日本インテリアデザ イナー協会関西事業支部	後援
平成23年12月12日	頑張れ日本！チャリティー クリスマスライブ2011	(社) 日本商環境設計家協 会関西支部	後援
平成24年2月18～ 23日	2012大阪工芸展	(社) 大阪工芸協会	後援
平成24年3月13日	JCD連続デザインシンポ ジウム	(社) 日本商環境設計家協 会	後援